

第1章

佐賀県の概要
【No.1】

佐賀県の地質・地形



佐賀県の地形は、
どうやって
できたのだろう？



玄界灘

九州の北西部に位置する佐賀県は、東は福岡県、西は長崎県に接しています。北は玄界灘、南は有明海に面しており、県土は北東部の脊振山地や南部の多良山地、佐賀平野などさまざまな地形で成り立っています。比較的温暖な気候で、それぞれの地形や自然の恵みを生かした産業が発展しています。

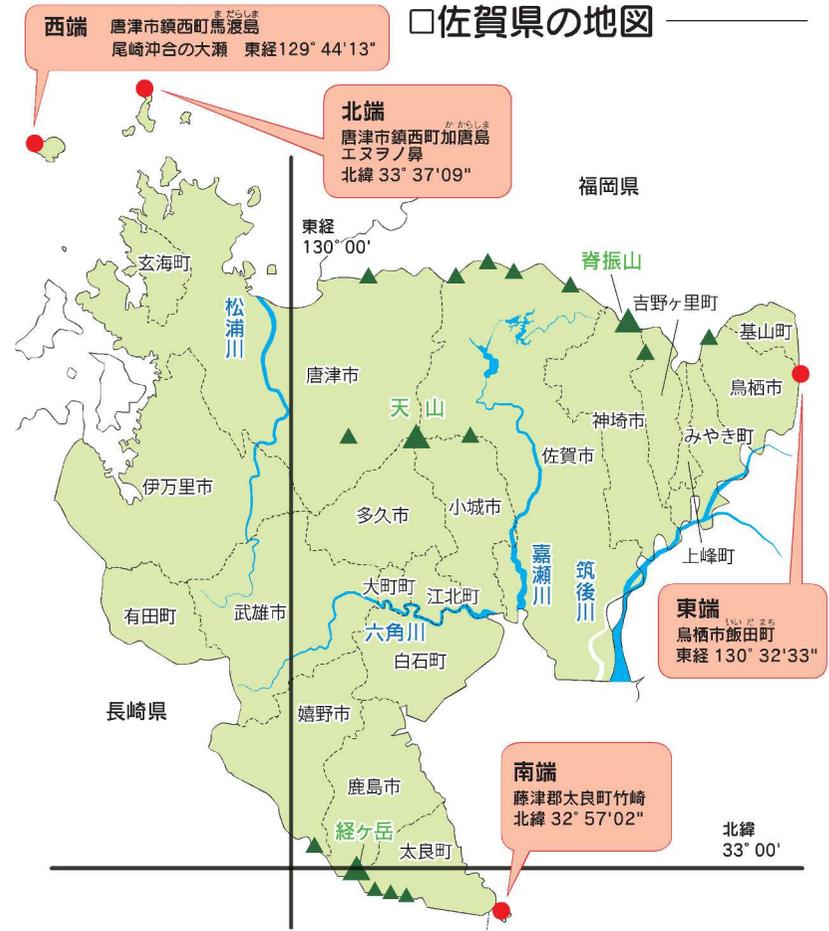


私たちが住んでいる
地域の地質の違いを
探っていきましょう！

有明海

(写真は佐賀県観光連盟 提供)

佐賀県の地図



佐賀県の標高800m以上の山岳

● 経ヶ岳 1076m	● 脊振山 1054m	● 天山 1046m
● 多良岳 996m	● 井原山 982m	● 金山 967m
● 雷山 955m	● 羽金山 900m	● 作礼山 887m
● 黒木岳 881m	● 蛤岳 863m	● 九千部山 847m
● 彦岳 845m	● 一ノ宮岳 827m	● 国見岳 816m
● 浮獄 805m		

(資料：国土交通省国土地理院)

佐賀県の一級河川の長さ

● 嘉瀬川 56900m	● 六角川 46000m	● 松浦川 45300m
--------------	--------------	--------------

(「佐賀県のすがた 2025」より)

佐賀県の概要
第1章

佐賀県の歴史
第2章

佐賀県の人物
第3章

佐賀県の文化
第4章

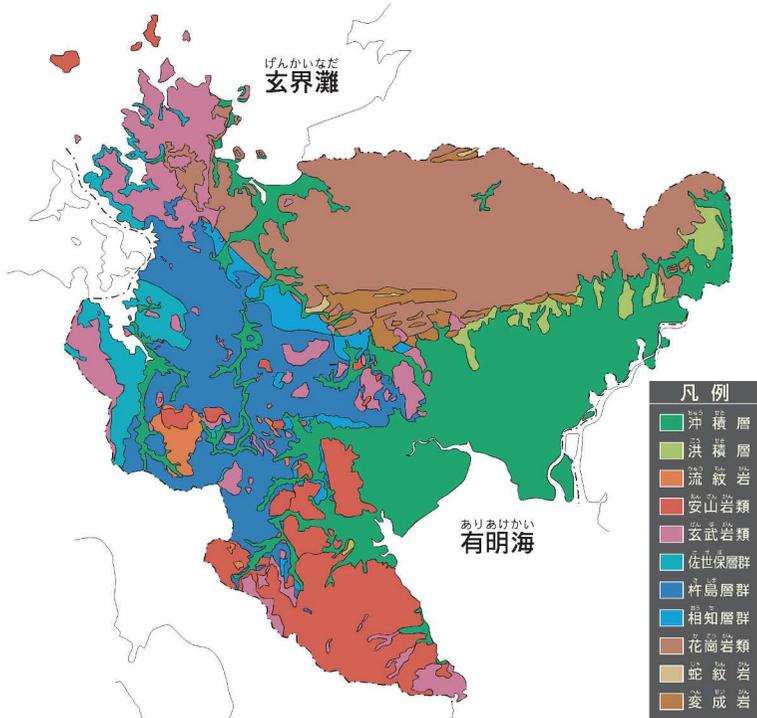
佐賀県の自然
第5章

佐賀県の産業
第6章

佐賀県の食文化
第7章

佐賀県の地質は、何億年も前から長い年月をかけて作られ、現在も少しずつ変化をしています。県内各地の岩石や地層などから、それぞれの地質の特徴を知ることができます。

□佐賀県の地質図



〔佐賀県「佐賀県の地質と地下資源（1954）」、経企庁「佐賀県土地分類基本調査（1974）」〕

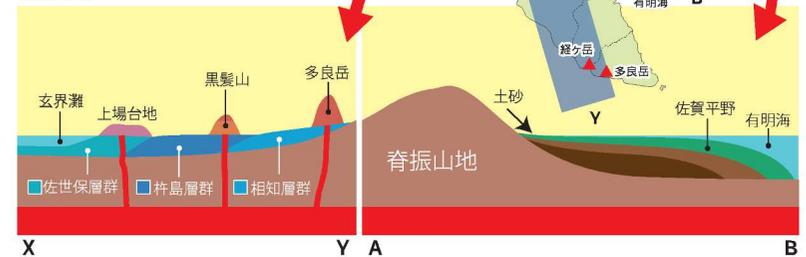
佐賀県の地形は、北部の山地、西部の丘陵地、南部の山岳地、東部の佐賀平野の大きく4つに分けられ、それぞれに特徴のある地質の分布が見られます。

- 脊振山地を中心とした地域（古生代～中生代に形成）**
佐賀の大地の基盤（地質：花崗岩・変成岩など）
- 丘陵地を中心とした地域（新生代 古第三紀に形成）**
浅い海の底や湖の底だったことを表す地質（地質：佐世保層群・杵島層群・相知層群など）
- 多良岳や台地を中心とした地域（新生代 古第三紀～新第三紀に形成）**
火山活動によってできた大地（地質：多良…安山岩、上場台地…玄武岩が中心）
- 佐賀平野を中心とした地域（新生代 第四紀に形成）**
（地質：有明粘土層、島原海灣層、軽石火山灰層など）

□佐賀県の地形の成り立ち

それぞれの特徴的な地形がどのように変化してきたかをイメージしてみましょう。

佐賀県の地形ができた様子（概念図）



- 脊振山地の形成**
県内で最も古い地質で、脊振山や天山などは、地下深くにあったマグマが冷えて固まってできた花崗岩などが中心です。
- 佐世保層群・杵島層群・相知層群の形成**
海底や湖底などに積もった砂や泥がだんだん固くなり、堆積岩が形成され地層となりました。石炭などの化石がしばしば含まれていることも特徴です。
- 上場台地、黒髪山、多良岳などの形成**
活発な火山活動によりできた大地。西部を中心に広く分布し、玄武岩などからなる上場台地、安山岩からなる多良山系が特徴です。
- 佐賀平野の形成**
筑後川や嘉瀬川などの流れによって侵食された土砂が有明海に運ばれ堆積し、低平な大地となりました。

見どころスポット

佐賀県立宇宙科学館

住所：武雄市武雄町永島16351
電話：0954-20-1666
開館時間：【平日（火～金）】
9時15分～17時15分
【土・日・祝】9時15分～18時
休館：毎週月曜日（祝日の場合、翌日）
料金：大人520円、高校生310円、
小・中学生200円、幼児（4歳以上）100円



調べてみよう!

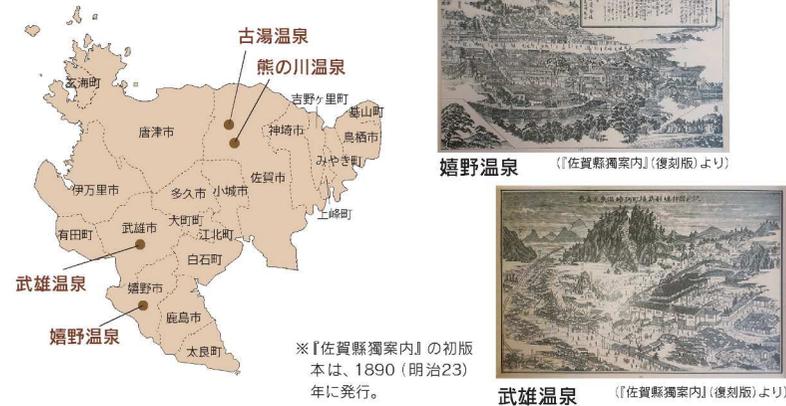
自分が住んでいる地域の地質を調べてみよう。



□佐賀県の温泉地

温泉は、地下水がマグマの熱などで温められたものです。佐賀県にはさまざまな泉質の温泉が湧き出ている、人々の暮らしに役立ってきました。

江戸時代以前から親しまれてきた温泉



□佐賀平野のクリーク

佐賀平野には多くのクリーク（水路）が整備されています。クリークは農業用水の確保だけでなく、さまざまな機能があります。

クリークの機能

- 農業用水をためて水田に送水します。
- 洪水時には雨水を一時的にためておき、水害などを予防する働きがあります。

その他、ドジョウやメダカ、トンボなどさまざまな生き物が生息していたり、水と緑が豊かなクリークを利用した公園もあります。

ポイント

佐賀平野のクリーク総延長は約2,000kmにも及ぶとも言われているよ。



佐賀平野に残るクリーク（国指定史跡 姉川城跡）
クリークが縦横に巡らされた環濠集落の一つ。昔ながらの良好な状態で残っています。

横武クリーク公園（神埼市）
クリークを生かした6haに及ぶ公園で、園内のクリークでは釣りも楽しめます。

整備されたクリーク
クリークの統廃合によって、直線化された効率的な水路に変わってきています。

佐賀県のシンボル

「佐賀」の名前の由来

日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が巡幸の際に、クスが栄えて繁る様子を見て「この国は栄の国（さかのくに）と呼ぶがよかろう」と言ったという『肥前国風土記』の記述に由来して「さか（栄）」が「サガ」になったという説など諸説があります。

県旗



クスの花を図案化して、佐賀県の栄える姿を象徴したものです。（昭和43年12月制定）

佐賀県のシンボルマーク



豊かな佐賀の県土と海を表現しており、中央の円は、豊かさの輪であり、恵まれた資源と歴史のうえに、人を中心に自然と文化が響き合い共鳴している様子を表現し、広がりゆく発展性を象徴しています。佐賀を舞台に、県民と日本や世界の人々が交流し、響き合っていく様子を表現しています。（平成4年5月18日制定）

県紋章



円形は協和を意味し、県民が力を合わせ手をつなぎ合い、一つの力より三つの力でますます三力（さか）える姿と、佐賀の「三力（さか）」を表しています。（昭和11年制定）



県鳥（カササギ）
「カチガラス」とも呼ばれ、佐賀平野を中心に生息しています。大正12年には、その生息地が天然記念物に指定されました。（昭和40年5月指定）

県花（クスの花）
直径3～4mmで白や淡い黄色のクスの花は5月頃に咲きます。（昭和29年3月指定）

県木（クス）
県内では武雄市にある「川古のクス」が最大。根まわり33m、樹齢は3000年をこえると推定されます。（昭和41年9月指定）

※佐賀インターナショナルパルーンフェスタ（佐賀県観光連盟 提供）

第1章

佐賀県の概要
【No.2】

2つの海の特徴

佐賀県は、2つの海に面しています。北には対馬海流が流れ込む「玄界灘」、南には佐賀県など4県に囲まれた内海「有明海」があり、それぞれ異なる性質を持っています。

□景勝地が多い「玄界灘」

リアス海岸と砂浜海岸が続き、仮屋湾などの内湾や入り江が発達しています。景勝地が多く、沿岸の島々を含めた周辺海域は玄海国定公園に指定されています。



(佐賀県観光連盟 提供)

七ツ釜 (国天然記念物)

玄界灘の荒波の侵食作用を受けてできた7つの海食洞^{あらいほくどう}や海食崖^{あらいほかり}、海食台^{あらいほかひ}が見られます。

- ※1 波の侵食作用によって海食崖にできた洞窟のこと。【A】
- ※2 波の侵食作用でできた斜面の急な崖のこと。【B】
- ※3 海食崖の下の方にできる緩やかな斜面のこと。【C】

柱状節理

200万～300万年前、マグマが地上で急激に冷えて、六角形の柱状の割れ目(柱状節理)ができました。



(佐賀県観光連盟 提供)

白砂青松の松原

脊振山地の花崗岩が風化した砂が、川に運ばれて堆積した白い砂浜。長さ約4km、幅約500mにわたリクロマツが群生する海岸の風景は、国の特別名勝に指定されています。



□栄養分が豊富な「有明海」

波静かな内海の有明海には多くの河川が流れ込んでいます。野や山に染み込んだ雨水は、有機物や栄養塩などを取り込んで有明海に流れ込むため栄養分が豊富です。多様な生き物が生息し、ノリの養殖も盛んです。



(有明海漁業協同組合 提供)

日本一の干満の差

約6mの日本一の干満の差がある有明海。潮が引くと海岸線から約7km沖まで干潟が広がります。



(佐賀県観光連盟 提供)



東よか干潟 (佐賀市環境部環境政策課 提供)

ラムサール条約登録湿地

クロツラヘラサギなど絶滅が危惧される渡り鳥の越冬地や中継地になっている有明海の干潟。「東よか干潟」と「肥前鹿島干潟」はラムサール条約に登録されています。

【2つの海の違い】

	玄界灘	有明海
面している市町	7つの島を含む唐津市、玄海町、伊万里市	佐賀市、小城市、鹿島市、白石町、太良町
海岸線	リアス海岸	干拓により直線化した海岸線が多い
海岸線総延長 (佐賀県部分)	約260km	約97km
干満の差	約2m	約6m

調べてみよう!

玄界灘と有明海では、どんな魚介類がとれるかな?



見どころスポット

干潟よか公園・東よか干潟ビジターセンターひがさす

住所：佐賀市東与賀町大字田中 2757-4
電話：0952-40-7202 (佐賀市環境部環境政策課)
開館時間：9時～17時
休館：毎週月曜日(祝日の場合、翌日)、年末年始
料金：無料



佐賀県の概要
第1章

佐賀県の歴史
第2章

佐賀県の人物
第3章

佐賀県の文化
第4章

佐賀県の自然
第5章

佐賀県の産業
第6章

佐賀県の食文化
第7章

第1章

佐賀県の概要
【No.3】

縄文海進から干拓へ

現在の佐賀平野や有明海の干潟ができるまでには、長い年月と、阿蘇山の大噴火で降り積もった火山灰、造陸現象や干拓がかかわっています。

□阿蘇山の火山灰が日本中に



(上峰町教育委員会 提供)

八藤丘陵の阿蘇4火砕流 堆積物及び埋没林

約9万年前、阿蘇山が大噴火して、県内にも爆風と火砕流が到達しました。八藤遺跡(上峰町)で見つかった埋没林から、長さ約22m、直径約1.5mの巨木を含む多くの樹木がなぎ倒されたことが分かります。

この時の火山灰は日本全土に降り注ぎ、北海道東部でも15cmも降り積もりました。

□縄文海進のピークは約7000年前



縄文海進ピーク時の海岸線

約1万6000年前から温暖化が始まり、陸地の奥へ海水が入り込んできました。この現象を縄文海進といいます。縄文海進のピークは約7000年前。海面が上昇し、海岸線は今より約10数km内陸部にありました。

※東名遺跡については14ページ参照

(佐賀市教育委員会 提供)

□佐賀平野の成り立ち 造陸現象と干拓



(農林水産省 Web サイト
<http://www.maff.go.jp/kyusyu/seibibu/kokuei/18/kanlaku/index.html> を一部加工)

阿蘇山の大噴火で降り積もった火山灰や、砂礫が風化して粘土になり、川によって有明海に運ばれました。それが堆積して陸地や干潟が広がっていきました。これを造陸現象といいます。江戸時代以前から有明海を堤防で仕切った干拓が進められ、現在のような佐賀平野になりました。

見どころスポット

上峰町ふるさと学館

住所：三養基郡上峰町坊所 606
電話：0952-52-4934
開館時間：10時～18時
休館日：毎週月曜、第1火曜、祝日、年末年始
料金：無料

